

# 第1章 アンダーセンの終幕

## —監査法人の崩壊—



2002年7月30日  
ホワイトハウス

大型の企業破綻  
またそれに伴う  
会計疑惑

アメリカの資本主義は  
試されてきました

株式市場の  
混乱！

その精神が  
正しく運用され  
投資家・年金受給者を  
保護することを目的として

サーベインズ・オックスリー  
企業改革法を制定します

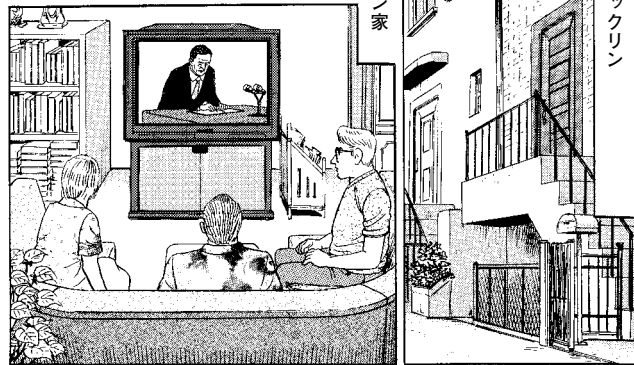
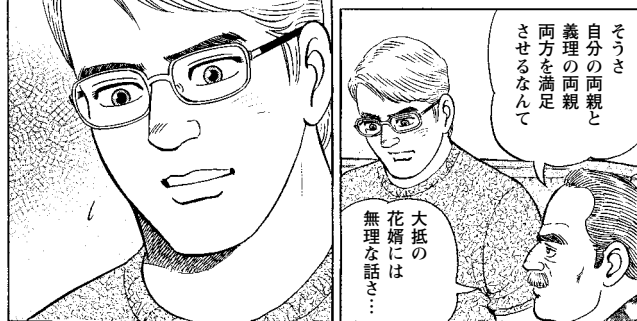
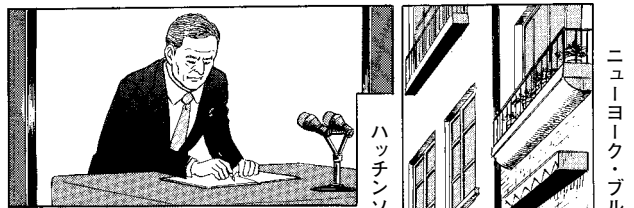
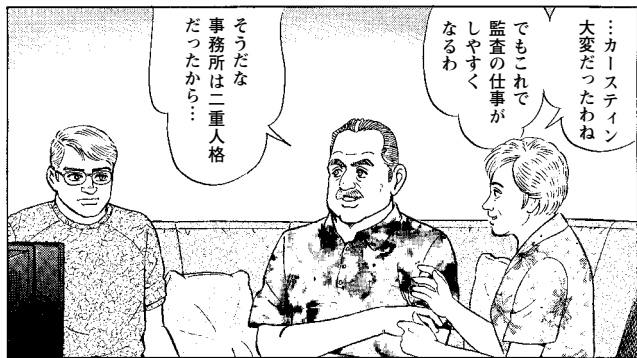
## Contents

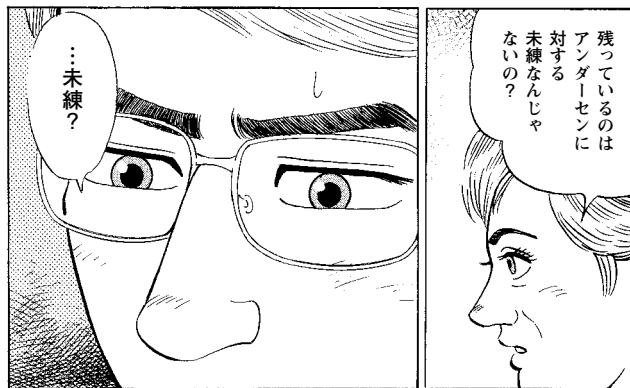
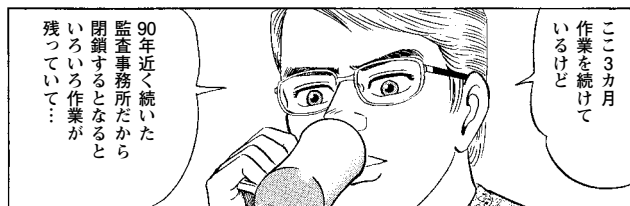
	はじめに	2
第1章	アンダーセンの終幕——監査法人の崩壊 SOX法と株式市場	7 46
第2章	アーサーズの量産——監査業務の均一性 アンダーセンとは	49 64
第3章	情報開示の良心——監査の役割 監査の役割	67 97
第4章	解釈と表現方法の多様化——資産と利益 資産と利益	99 118
第5章	本心との葛藤——会計監査のバランス感覚 会計監査のバランス感覚	121 144
第6章	現実と仮想の境界線——積極的な会計手法 積極的な会計手法	147 161
第7章	毒か薬か……——可能性を追求する時代の企業会計 可能性を追求する時代の企業会計	165 187

※この物語はフィクションです。

### 【免責事項】

本書は、バンローリングより刊行された『マンガ 監査法人 アンダーセン』を文庫化にあたり加筆、再編集し改題したものです。





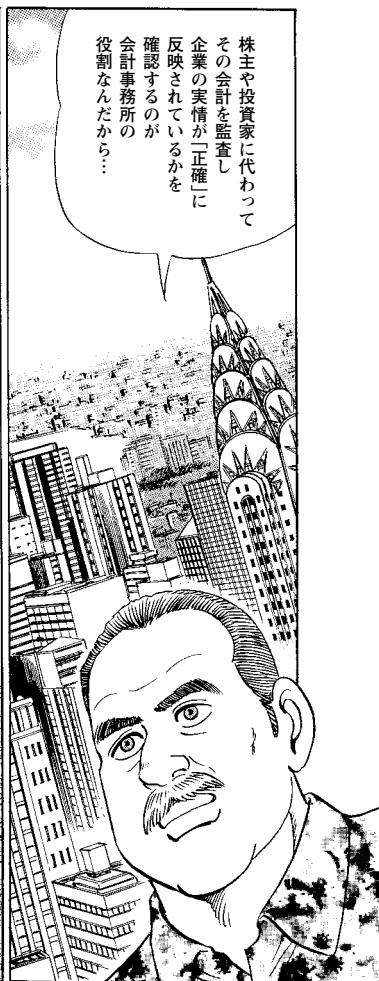


公認会計士は  
買収された  
審判だったんだ

会計事務所は  
信用を失ったんだよ

それなのに  
商業主義に走って  
監査人としての魂を  
売りものにしたから

株主や投資家に代わって  
その会計を監査し  
企業の実情が「正確」に  
反映されているかを  
確認するのが  
会計事務所  
役割なんだから！



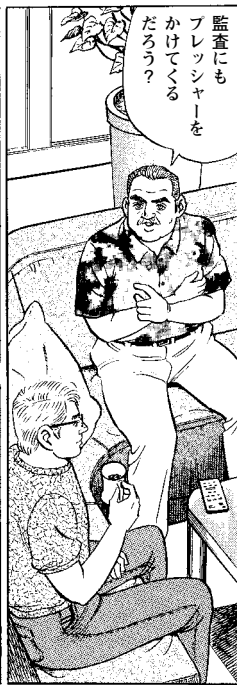
経営者の報酬が  
企業の株価に  
左右される  
ようになれば

実態よりも  
収益を良く  
見せようとして  
会計を操作する  
ようにもなる



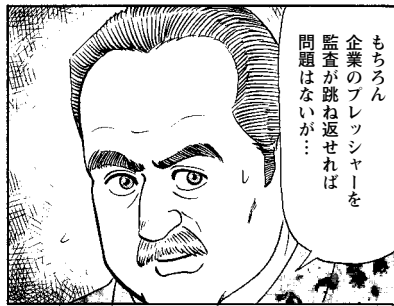
でもセシル  
会計は企業の  
資金の流れを解釈  
したもののよ

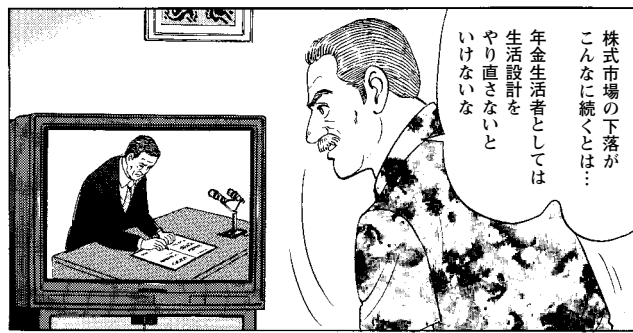
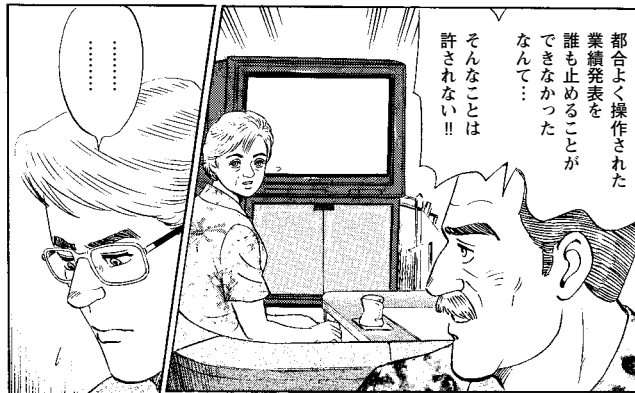
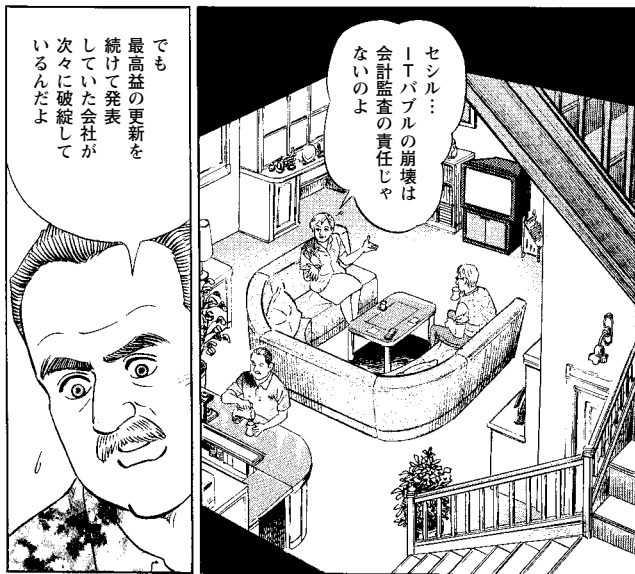
企業が自分に  
有利なように  
「解釈」したいのは  
当然で  
すべてが「操作」  
ではないと思うわ

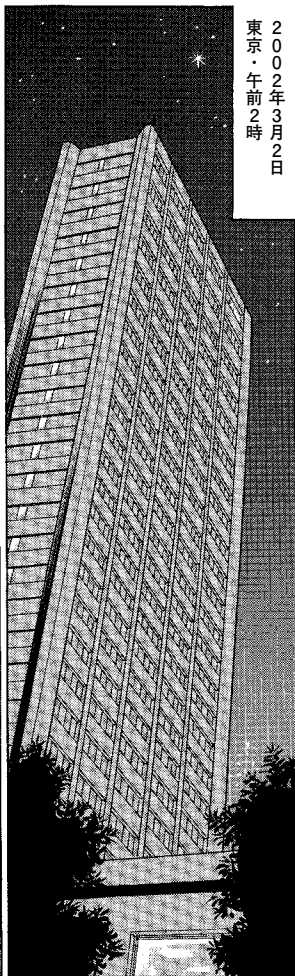
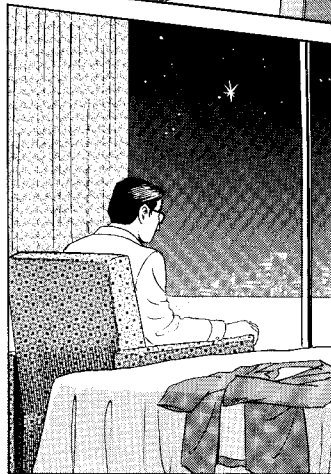
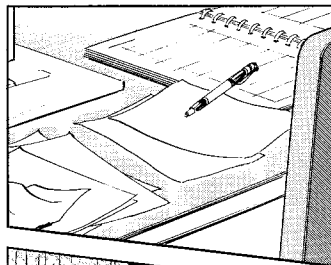
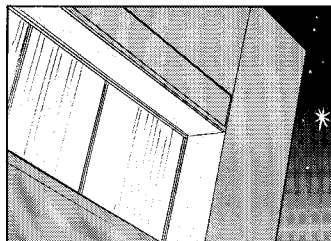


監査にも  
プレッシャーを  
かけてくる  
だろ？

もちろん  
企業のプレッシャーを  
監査が跳ね返せれば  
問題はないが！







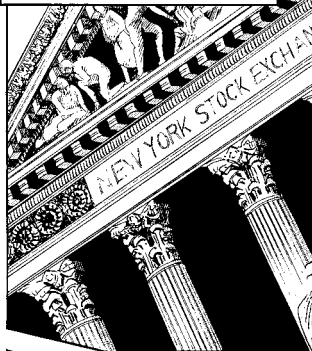
2002年3月2日  
東京・午前2時

この法律は  
企業と公認会計士の癒着を避け  
会計事務所利益相反を排除し  
発表される業績に対する  
企業幹部の責任を  
明確にしたものである

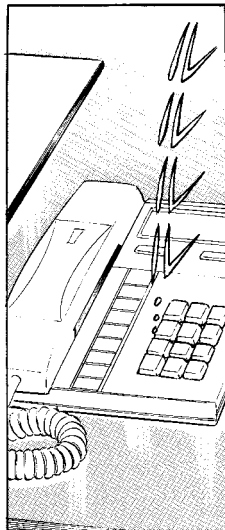
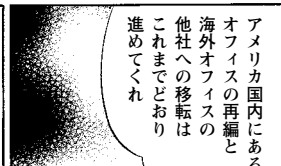
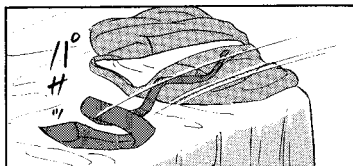
この法律を施行することで  
株式市場は失った信用を  
取り戻そうとしていたのだ



ブッシュ大統領は  
サーベインズ・  
オックスリー企業改革法に  
署名した



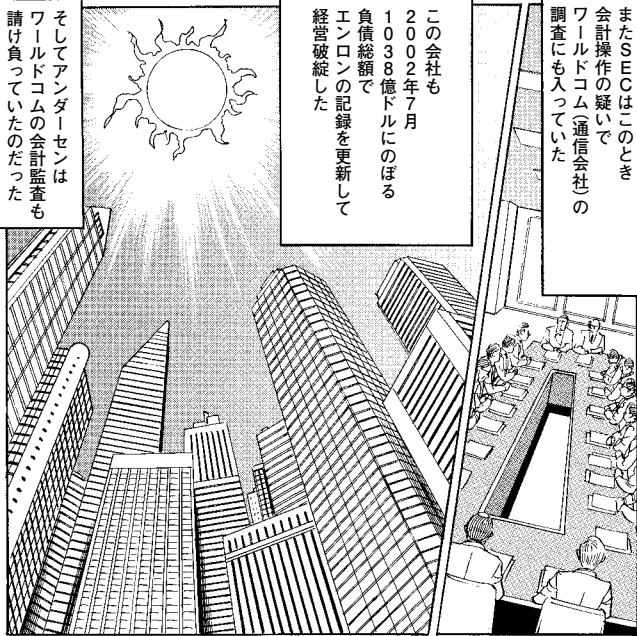
そしてそこには  
世界最大の  
会計事務所だった  
アンダーセンが活躍する  
場所はなかった：





法的な措置の準備を進めていった

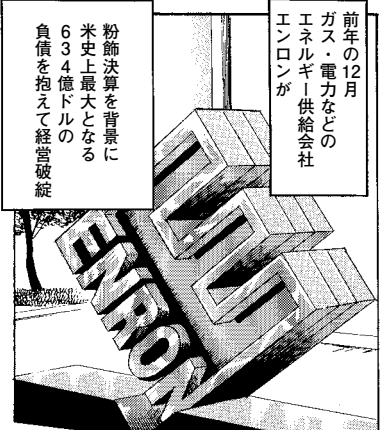
監査姿勢を指摘されたアンダーセンに対してSEC(証券取引委員会)などの当局は



そしてアンダーセンはワールドコム(通信会社)の請け負っていたのだった

この会社も2002年7月1038億ドルにのぼる負債総額でエンロンの記録を更新して経営破綻した

またSECはこのとき会計操作の疑いでワールドコム(通信会社)の調査にも入っていた



前年の12月ガス・電力などのエネルギー供給会社エンロンが

粉飾決算を背景に米史上最大となる634億ドルの負債を抱えて経営破綻



アンダーセンはこの会社の会計監査を請け負っていた

エンロンの破綻に対する株式市場の反応は大きく

ペラディノはシカゴ本社からの電話によって米連邦検察官がアンダーセンを司法妨害で起訴する方針を固めたとの報告を受けた

